日本共産党
愛知県議団

県政ニュース

No.121
2018年1月16日

〒460-8501名古屋市中区三の丸3-1-1
052（954）6716　fax052（961）5420
発行：日本共産党愛知県議会議員団

振興環境委員会（振興）12月12日　しもおく議員一般質問

あいち航空ミュージアム零戦展示に至る経過

しもおく議員は11月30日にオープンした、あいち航空ミュージアムの零戦展示について問い質しました。

零戦展示に至った経過について県は「零戦については5月に三菱重工が資料室を閉鎖し、大江工場に新設される展示施設への移設までの間、ミュージアムに展示のため借りれないかと交渉を進めた結果、10月に展示の調整が整いすぐ発表した」と答えました。

10月に展示の調整が整いすぐ発表した」と答えました。

展示されている零戦

零戦に対する歴史認識

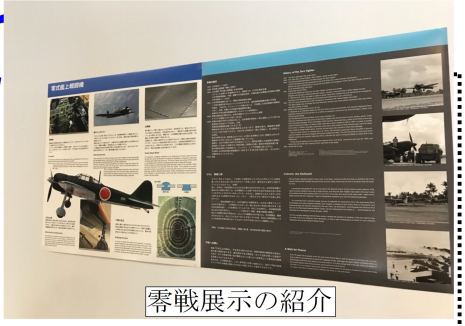
しもおく議員は今までにも何回か零戦について質問してきましたが、零戦展示が行われたことをふまえて「零戦に対する歴史認識」を改めて質問しました。県は、「零戦は愛知で製造された機体であり、現在の航空機産業の礎を築き、この地域が日本随一の航空機産業の集積地として日本の航空機産業を牽引する役割を担った。一方で零戦は、多くの若者が命を失った歴史があり、この展示を通じて平和への思いを新たにし、平和や戦争について考える貴重な機会になればと願う」と、零戦が日本の侵略戦争の最先端の軍用機であったことに目をつむる答弁を行いました。

侵略戦争に対する認識と零戦展示について

零戦展示の紹介文には、「平和への願い」として、「戦後70年以上が経過し、今を生きる私たちには、悲惨な戦争の教訓を次世代に語り継ぐ責務があります。…多くの若者の尊い命が犠牲になった悲しむべき特攻という歴史的な事実を背負うものでもあり…いま一度平和への思いを新たにし、改めて平和や戦争について考える貴重な機会となればとの願いをもって展示する」と記載されています。

しもおく議員は展示の文章について、「侵略戦争の記述や反省が一切ない、極めて大問題の説明文だ」と追及しました。

「侵略戦争・植民地支配にどう向き合うかは、国際社会・アジア諸国との関係で、たえず日本が問われ続ける。県は侵略戦争についてどう認識しているのか。『殺人兵器』である零戦展示は、侵略戦争美化の立場であり、直ちに取りやめるべきではないか」と問いただしました。


零戦展示の紹介

県は、展示の紹介文を引用したうえで「航空ミュージアムに相応しいと判断した」と答弁するとともに、侵略戦争についても展示の文章を繰り返すのみでした。

しもおく議員が「零戦展示に関する認識ではなく侵略戦争についての県の認識を聞いている」と追及しましたが、県は「この質問には答えられない。これ以上の答えはない」などと真正面に答弁しようとしませんでした。